

# 成功するヒナの購入のしかた

岡山県養鶏試験場 青山 寔

## はじめに

育すうは養鶏経営の中で特に技術を要する分野であって、育すうに成功することが養鶏経営に成功する第一歩であると言える。育すうの目的は主として採卵用、採肉用、種鶏用の鶏を育成することであり、それは将来多くの卵や肉を生産する鶏に育て上げるということである。そこで育すうに当っては細心の注意と愛情をもってヒナに接すると共に、良い飼料条件の下で周到な飼料管理をすることが大切である。

育すうに当って先ず第一にヒナの購入という問題に直面する。これは『育すう計画』のうちで最も重要な点である。

## 育すう羽数の決定

養鶏経営を安定させるためには、常時一定の産卵鶏を持ち、平均した産卵を確保することが必要であり、施設を有効に利用するためにも望ましい。一定数の産卵鶏を維持するためには、斃死や駄鶏淘汰によって減少する鶏を補充しなければならない。又鶏の年令によって産卵が減少するのでこれ等の鶏の更新も行う必要がある。補充、更新用としてどの程度ヒナを飼付けするかは、生産の目的、飼養形態、鶏の品種、資金、年令、飼養管理技術などによって異なるが、産卵鶏の飼養期間をどの程度にするか、産卵鶏の更新率をどのくらいにするか、初生ヒナから若メスまでの育成率はどの程度であるかなどをよく検討してきめる。

今仮に 300 羽の成鶏を維持するためには、300 羽のヒナを育成すると考えてよい。しかし、もう少し厳密に言えば更新率を 70% とすると、 $300 \times 70\% = 2100$  羽の若メスが必要となる。若メスに仕上げる育成率を 80% とすると、210 羽を 0.8 で割った羽数、すなわち 263 羽の餌付けを行えばよいことになる。このようにして先ず購入に必要なヒナの羽数を決定する。

## 育すうの時期

次に育すうの時期をどうするかという問題である

が、一般にヒナを育てるのに最も適した季節は、気候的にみて、春と秋の彼岸前後である。

專業養鶏では、年中どの時期にもだいたい一定した羽数で平均した産卵を維持することが必要で、このため春秋 2 回の育すうでは片寄りを生ずるので毎月、又は 1 ヶ月おきに餌付けをすることが必要となる。これは施設の利用、労力や資金の配分の面からも有利な方法である。しかし一方比較的少羽数飼育の場合は餌付回数が多くなると施設や労力を要し不経済となるから、その規模や能力に応じて育すう回数と餌付羽数を定める。

農家養鶏では年 2～3 回くらいの餌付けがよく、春と秋に育すうを行う場合には、春は 3 月又は 4 月頃、秋は 9 月中、下旬から 10 月上、中旬くらいとして秋の育すうは補充用と考えるようにする。

次に育すう時期、言い換えればヒナの孵化時期は、産卵開始までの日数と深い関係があつて、一般に秋に育すうを開始したヒナは、初産までの日数ももっとも短い。春夏孵化のものはそれほど性成熟日令には差がないが、同じ春ヒナでも 2～3 月の早春ヒナと 4～5 月の晩春ヒナでは晩春ヒナの方が性成熟がおくれる。地域による差異は多少あるが四季でそれぞれ育すうの一般的な特質があるので、いつの時期に育すうを行うかはよく検討しなければならない。

## 品種の選定

どの品種を飼育するかは、立地条件や廃鶏価格、消費者の好みなどによって異なるが、目先の変ったものや、流行を追うものではなく、生産目的に合致した、堅実なものを選ぶ必要がある。採卵用としては全般的には白レグがすぐれているが、改良に熱心な種鶏家の兼用種、一代雑種は決して白レグに劣らない産卵能力を示す。特に一代雑種の能力は親種鶏の改良程度や、交配方法によって左右されるからこの点はよく注意し、能力のすぐれた種鶏をもって、よく研究された交配方法が行われた一代雑種を選ぶことが大切である。

## 岡山畜産便り 1963.12

### ヒナの入手

入手したヒナの品種は、直接育すう成績に影響があるばかりでなく、若メスになってからの産卵や強健性などにも影響するから、ヒナの購入に当っては十分に調査して、過大な広告や宣伝に迷わされてはならない。

孵化場を選ぶにあたっては先ず種鶏検査を真面目に実施し、生産能力、拮病性などに対して熱心に改良を行っており、各方面で優秀な成績をおさめている種鶏をもっている孵化場であること、又衛生的な孵化施設を持ち、消毒を充分行っている孵化場でなくてはならない。実際には孵化場に出かけて行き孵化場や、種鶏家の状態を調査することが大切である。又近所によい孵化場がある場合はなるべく近くの孵化場を利用の方が都合がよい。最後にヒナの価格と品質であるが、ヒナの価格は育すう時期によって異なり需要の多い春は一般に高い。一方あまりにも安いヒナは感心出来ない場合が多いので、中くらいあるいはそれ以上の価格のヒナを購入する方がよいと思われる。